

国士館大学大学院入学試験問題

2026 年度入試 I 期 修士課程 一般選考・留学生選考

人文科学研究科 人文科学専攻 地理学

参考書等持込・不可

次に示す 6 つの問のうち 3 つの問を選択し、それぞれ答えなさい。その際、志願者が人文地理学を専攻する場合は人文地理学の問を 2 つと自然地理学の問を 1 つ選択し、自然地理学を専攻する場合は自然地理学の問を 2 つと人文地理学の問を 1 つ選択すること。解答にあたっては、解答する問の番号を明記すること。

自然地理学 1：市町村規模のある一定の地域において、農林水産業もしくは観光業による地域振興を目的とした地域計画を策定することとする。そしてそのための基礎資料を得るために、自然地理学的な総合調査を行うものとする。このような調査について、具体的な地域を一つ設定して複数の調査項目を提示し、調査方法や調査計画ならびに期待される成果について概説せよ。調査項目は、「地形」と「植生」を含む 3 項目以上とするのが望ましい。はじめに、「どのような地域振興を目的とした地域計画のための自然地理学的調査であるのか」、「どの市町村を事例地域とするのか」を明示すること。

自然地理学 2：海洋沿岸付近の地上において吹走する風の代表例として海陸風があげられる。海陸風の発生メカニズムについて、昼間および夜間の大気の大気熱収支・気圧配置に言及しながら説明しなさい。

自然地理学 3：日本のいわゆる「地すべり多発地帯（地域）」と呼ばれる地域、あるいは山岳のいくつかを取り上げ、それらの地域で地すべりが多発する理由について、素因と誘因を踏まえ具体的に論述せよ。

人文地理学 1：歴史時代において関東平野を形成しながら現在の東京湾に流れ込んでいた利根川に関して、江戸時代の初めに、その中流部で常陸川（現在の鬼怒川筋）に結んで銚子方面につながる運河が開削されたり、本流が現在の江戸川に固定されるという事業が行われた。これらの事業が行われた理由を 2 点以上挙げて、歴史地理的背景と合わせて説明せよ。

人文地理学 2：アフリカ諸国の中には農産物の生産や輸出に強く依存した国々がある。それらの生産国では安価な商品を生み出すために、生産者や労働者が不利益を被る事例があることが報告

されている。近年はこれらの問題を解決するための仕組みとして、フェアトレードが導入されているが、フェアトレードとはどのような取り組みか。具体的な国名と農産物を含む事例をあげて説明せよ。

人文地理学3：次の①～③の語句の全てについて、それぞれ必要十分な解説を行いなさい。

- ① 園芸農業
- ② 広島平和記念碑（原爆ドーム）
- ③ ノルウェー王国

人文地理学4：サービス経済化の進展にともなう地理・地域的な変化とそのメカニズム・要因に関して説明せよ。

国士館大学大学院入学試験
出題の意図と採点のポイント

人文科学研究科 人文科学専攻

I 期

一般選考・留学生選考

地理学

■出題の意図

大学の学部レベルの地理学の学習内容について理解度を問う問題である。基礎的理解力だけでなく、現象のメカニズムを論理的に説明する能力や応用的な考察力を問う。いずれも地理学的な諸事象の相互関係についての理解度も問われるので、大学学部レベルの地理学についての総合的な知見を試すことができる。

■採点のポイント

自然地理学1：(採点ポイント)

- ・ 出題の意図をよく理解して全体として適正な調査方法・調査計画が提示されているか？
- ・ 自然地理学的調査の諸項目について、学術的に正確な理解にもとづく調査方法や調査計画が示されているか？
- ・ 調査項目相互間の関係性についても言及されているか？
- ・ 期待される地域振興のための成果として、適切な論述が示されているか？

解答例

山梨県山中湖村において、観光業の振興を目的とした地域計画のための自然地理学的な基礎調査を行う。そして基礎調査の成果に応じて、観光業の振興のための魅力的な植生景観づくりや野生動物の管理・活用のための提言を行うこととする。

1. 調査項目および調査方法

①地形調査

現地調査と各種資料の分析により、1万分の1スケールの地形分類図を作成する。

②植生調査

現地調査と各種資料の分析により、1万分の1スケールの優占種による植生図と注目される植生景観（並木・生垣・孤立木など）の分布図を作成する。

③哺乳類および鳥類の生態地理学的調査

現地調査により、シカ・イノシシ・ツキノワグマなどの大型哺乳類やニホンリスなどの小型哺乳類、および水鳥などの大型鳥類の分布と生態を調べる。

2. 期待される成果

- ・地形分類図と植生図を GIS にて重ね合わせることで、地形に応じた立地単位ごとの植生配列のパターンをとりまとめる（例：小起伏山地のおもな植生はミズナラ二次林）
- ・哺乳類や鳥類の生息状況についても、GIS にて地形と植生の出現パターンと関連づけて整理する（例：シカ個体群は小起伏山地のミズナラ二次林をめぐらして夜間を中心に低地にある里地の緑地で採餌行動をしている）
- ・地形分類に応じた立地単位ごとに、観光資源として注目される植生型（例：ススキ草原、フジアザミ草原）や在来種を活用した生物多様性保全型の魅力的な植生景観（例：ハルニレ並木、モミ並木）を示す。また、調査結果にもとづきツキノワグマなどの危険な動物の管理指針を示すほか、ニホンリスなどエコツーリズムの資源となり得る動物の保全や観察の指針などを提示する。

自然地理学 2：（以下の内容を含む場合に加点する）

総観規模の気圧傾度が小さく、晴天で昼夜の地表面の加熱・冷却が大きい場合に、日中には海面から陸面へ、夜間には陸面から海面に向かって地上・海上を吹走する風を総称して海陸風という。

晴天の日中の沿岸部では、陸面と海面の双方が日射によって加熱されるが、陸面は比熱が小さいため日射によって早く温まり、海面は比熱が大きいため温まりにくいという違いが生じる。この結果として、陸面の空気は海面よりも早く高温になり、膨張・上昇する。この上昇によって陸面には熱的低気圧が形成される。一方、海上の空気は相対的に冷たく、収縮・下降することで海面には相対的に高気圧が形成される。この気圧差によって風は海面から陸面へ向かって吹く。これが日中には海面から陸面へ吹く海風である。

晴天日の夜間になると日射がなくなり、比熱の小さな陸面は放射冷却によって急速に冷える。これに対し、比熱の大きな海面は緩やかに冷える。その結果、夜間には陸面が海面より冷たくなる。冷やされた陸面の空気は収縮・下降し、相対的な高気圧が形成される。一方、海面の空気は比較的暖かなため膨張・上昇し、低気圧が形成される。この気圧差により風は陸面から海面へ向かって吹く。これが夜間に吹く陸風である。

日本の沿岸部における陸風から海風への交代は平均的には日の出後 3 時間程度、海風から陸風への交代は日没後 30 分から 1 時間程度に生じる。陸風は最大で風速 2 m/s 程度であるが、海風は最大で風速 5～6 m/s に達し、数十 km 内陸まで到達することもある。海風は内陸部において上空を陸から海に向かって吹く反転流と一続きとなり、その上昇気流にともなって積雲が発達することもあり、沿岸部の気象に大きな影響を与える。

自然地理学 3：（模範解答例の一部）以下の内容（地域）のいずれか、もしくは複数触れられているかを採点ポイントとする。

地すべり多発地帯の具体的な地域としては、新潟県魚沼地域（特に東頸城丘陵や松之山地区）、紀伊山地（奈良県十津川村および和歌山県熊野地域など）、中国山地、四国山地、長崎県北松浦半島および佐賀県西部などが挙げられる。それぞれの素因と誘因についての概要は以下の通りであ

る。

新潟県魚沼地域：地質構造としては第三紀層（泥岩・凝灰岩・砂岩など）が厚く堆積し、これらが風化して粘土化している。地形は緩やかな丘陵地で、粘土層の上に比較的重い地層が重なっているため、滑りやすい構造となっている。また、降雨や融雪水が地層間に浸透することで、地下水表面が上昇してすべり面を形成しやすいという特徴を有する。誘因の一つとして考えられるのは、冬季の豪雪が春先に融解することで大量の水が地下に浸透することや、豪雨が地盤を過飽和状態にすることで滑動を誘発することなどが挙げられる。特に、水分が地下深部へ浸透して地下水の水压が上昇すると、斜面の力学的な安定が損なわれて地すべりが滑動する。また、2004年の新潟中越地震では、凝灰岩の一種であるグリーンタフ地帯において、地震動（長期間の強い余震活動）による地すべりが頻発した。

紀伊山地：地質としては主に砂岩・頁岩互層から成る脆弱な地層で、四万十帯（付加体）特有の断層が密に発達していることで破碎帯が多く岩盤がもろいという特徴がある。地形は急峻な山岳地形であると共に、地質時代の小起伏面が残存する。その小起伏面の縁が流れ盤構造になっている場合には、斜面変形が発生し、最終的に地すべりに移行する。また、林業の影響などで人工林が多く、根系による地盤の保持力が低下しているとの報告もある。当該地域は極端に年間降水量が多く、特に台風や前線性降雨で地盤が過飽和状態になることが誘因として挙げられる。

中国山地：地質としては領家・三郡などの変成岩類、中～古生層の堆積岩類、白亜紀～古第三紀の花崗岩類、第三紀以降の火山岩類・堆積岩類から成っており、特に風化の進んだ花崗岩質土壌（マサ）が広く分布する。また、日本海側には第三紀の火山活動の影響を受けたグリーンタフが分布する。中国山地の地すべりは、この新第三紀層の分布域と、中～古生層の堆積岩類、変成岩類の分布域に密集している。マサ土は水を含むと、きわめて滑りやすいという特徴がある。また、平成30年7月豪雨といった台風や梅雨前線にともなう集中豪雨、あるいは線状降水帯の発生などによって地すべりが発生した事例もある。

四国山地：吉野川流域は、中央構造線など大規模な構造線が東西に走り、北から和泉砂岩層、三波川帯、秩父古生層と3つの異なる地質帯が分布している。構造線の影響を受け、地質は複雑かつ脆弱で、崩壊や地すべりの要因となっている。なかでも南小川、祖谷川の上流部は、全国でも有数の破碎帯地すべり、および崩壊の多発地となっている。また、重信川流域においても、流域南部を走る中央構造線により、北側の地質は古生層とそれらを通る花崗岩および中生層の和泉層群、南側は結晶片岩とそれを不整合に被う第三紀層の石鎚山層群が分布している。中央構造線の影響を受けて複雑な地層を成しているため、崩壊密度の高い地質となっている。当該地域は梅雨期の6月と、台風の進路でもあるため7～9月に顕著な降水（全国有数の多雨地域）があり、これが誘因となって地すべりが発生することがある。

北松浦半島周辺地域：長崎県北部から佐賀県西部にかけては、日本有数の地すべり地帯が広がっており、その範囲が北松浦半島全域にわたることから北松地すべり地帯と呼ばれている。この地域の地すべりは、厚く広大な玄武岩層が地層の層理面に沿ってブロック状に滑落したり（流れ盤すべり）、中規模の風化岩層等が層理面逆方向に崩落したりする（受け盤すべり）場合が多い。このような地すべりを北松型地すべりと呼ぶ。地質構造（地層）としては、玄武岩台地とその下部にある第三紀層の間に砂礫層が挟まっている。集中豪雨などが起こると、この砂礫層に溶岩の節

理から雨水が到達し、砂礫層が粘土化することですべり面が形成される。これにより、上部の玄武岩が滑動する（北松型第一次すべり）。また、第一次すべりによって斜面に堆積した碎屑物が、基底部の粘土化、雨水による飽和で不安定になることで、末端部から滑動、崩壊することがある。これを、北松型第二次すべりと呼ぶ。

人文地理学1：(解答例)

関東平野を形成しながら現在の東京湾に流れ込んでいた利根川の河口部に近世江戸が立地したが、そこは近世関東の領国支配の地理的中心に位置し支配に適していた。特に利根川水運を利用して利根川流域の領地から年貢米を輸送することができ、江戸から各地へ商荷物輸送も行われた。しかしながら、領国の東方には常総台地が広がるため、交通の不便となる陸路の利用が必要であった。これを改善するために、中流部で常陸川（現在の鬼怒川筋）に結んで銚子方面につながる運河が開削された。これにより現在の下利根地方の水郷米が舟運で江戸に輸送できるようになっただけでなく、外房沖で難所が多かった東回り海運を銚子から利根川筋に通す奥川筋周りに改善し、航路の安定を図ることができるようになった。さらに利根川中流部の埼玉平野では洪水により水災が多発し農地が安定しなかったため、これを改善するために荒川と利根川を分離するために荒川を入間川筋に瀬替えする一方、利根川を下総台地崖下の現在の江戸川に固定した。これらの事業の結果、埼玉東部の沼沢地の干拓が進展して新田開発が進められ、多くの新田村ができた。これにより近世領国の中核となる関東中央部の生産性や利便性が高まったといえよう。

人文地理学2：(解答例)

フェアトレードとは、途上国の生産者に公正な賃金や労働条件を保証した適正な価格で商品を購入することにより、途上国の自立や環境保全を支援する国際協力の形態である。経済的にも社会的にも弱い立場にある生産者の生活改善と自立を目指しており、適正な価格で長く取引をしたり、雇用を創出したりすることにより、途上国の貧困解消や経済的自立を促すねらいがある。

たとえばガーナのカカオ生産を担っているのは小規模農家であり、カカオ豆の買取価格が低く抑えられていることが指摘されている。さらに近年は、カカオノキの高齢化や気候変動の影響を受けて収量低下が生じているとされており、カカオ生産からの収入増加を目指した生産者がカカオ畑を拡大させた場合に、森林伐採が加速するのではないかと懸念されている。そのため、農家の収入を安定的に増加させることを目指して、多くの企業や NGO などが、生産者と環境に配慮して生産されたカカオ豆を適正な価格で継続的に購入するなどの取り組みを実施している。

人文地理学3：(解答例)

- ① 園芸農業とは、野菜、花卉、果物、庭木などを、都市市場への出荷を目的として栽培する農業である。狭い土地で高い技術と多くの労働力・資本を投入して行われる高度な農業形態で、都市からの距離によって「近郊農業」と「輸送園芸（遠郊農業）」に大別される。栽培方法と

しては露地栽培のほか、温室やビニールハウスを利用した促成栽培や抑制栽培など、都市市場の価格に見合った生産を行うなど企業的な側面が見られる。

- ② 広島平和記念碑（原爆ドーム）とは、広島市の中心付近にある建造物で、原爆投下時までは広島県産業奨励館と呼ばれていた。1945年8月6日至近距離に原子爆弾が投下され、本体部分はほぼ全壊したが中央のドーム部分だけは全壊を免れた。その後紆余曲折を経て原子爆弾の惨禍を示すシンボルとして保存されることになり、さらに1996年には世界文化遺産として登録された。
- ③ ノルウェー王国は、北ヨーロッパのスカンディナヴィア半島西岸に位置する立憲君主制国家である。首都は半島南端部に存在する港湾都市のオスロで、国土は南北に細長く海岸線には多くのフィヨルドが発達する。古くからノルマン人が居住し、かつては農業国だったが、20世紀になると豊富で安価な水力や天然資源を生かして工業化が進み、1人当たりの国内総生産(GDP)は世界第4位である。

人文地理学4：(解答例)

サービス経済化の進展は、都市・大都市への集中・集積をもたらす。それはサービスが「貯蔵も輸送もできない」という本質的性格を有するがゆえである、こうした性格は生産と消費を時間的・空間的に分離できないということであるから、消費の中心地である都市に、サービスの「生産」機能も集積せざるを得ない。サービスの集積が事業所サービスの集積を生み、また各種サービスの利用しやすさは人口のさらなる集積をもたらす。こうした作業は累積的循環的因果関係となって、都市の集積・集中が進む。さまざまな地域スケールにおいて「一極集中」化が進むのは、こうしたメカニズムが働くからである。